





# 子どもだけでなく多世代の人々が集い、共に学び、語らい、育ち合う場づくり。

## 1 子どもたちと地域の日常的な交流を生み出す配置

- 高低差を活かした施設アプローチ
  - ・高低差のある敷地の下段に駐車場を設け、明確な歩分分離を行い、校舎へとつながる安全で分かりやすいアプローチをつくります。
  - ・駐車場は、校舎だけでなく、桜島ビジターセンターへのアクセスも配慮したアプローチ動線を確保します。
- 既存のスロープからつながる道を形成
  - ・既存のスロープを利用して、敷地北側からのアプローチを校舎や桜島アリーナ、補助体育館、公民館までを「桜島ストリート」でつなげること、子どもたちの日常的な動線の確保と地域の人々が訪れやすい道をつくります。
- 桜島と錦江湾を望む施設配置
  - ・敷地の高い位置に建物を配置することで、校舎からは錦江湾を一望でき、「桜島みらいステーション」からは火山学習を行いながら桜島を望むことができます。



## 2 子どもたちにとって使いやすいやささが住民にとって使いやすいさにつながる施設構成

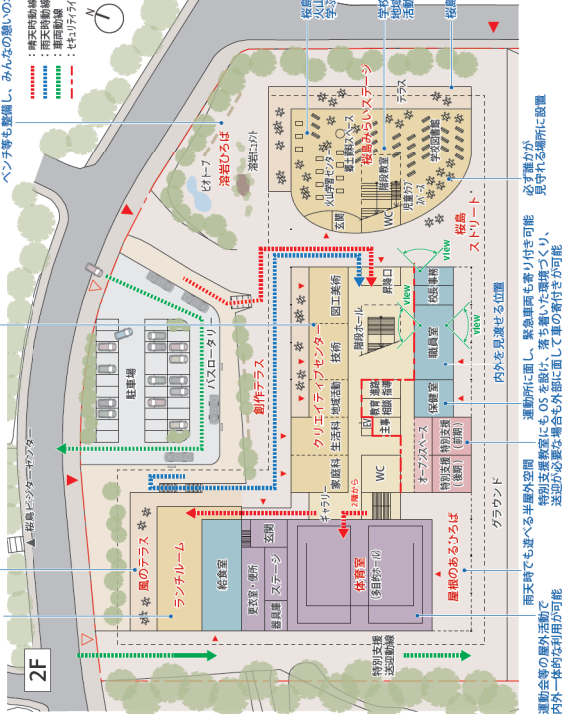
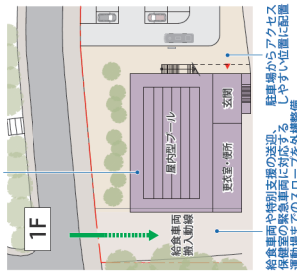
- 大きなひとと屋根下の分かりやすい施設構成
  - ・吹抜け空間を中心に回遊性があり、普通教室や特別教室、火山学習センター、郷土資料スペースを「桜島みらいステーション」として集約し、学校図書から桜島資料まで全てが揃った情報・交流の場とします。

## 3 新しい時代の学びを実現する柔軟で創造的な空間づくり

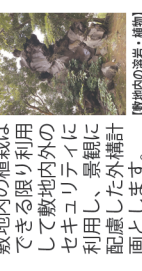
- 主体的・対話的で深い学びの環境づくり
  - ・普通教室、特別教室に加え、桜島みらいステーションや階段教室、ラーニングスペース等の「個別最適な学びと協働的な学び」が行える学習スペースを充実させることで、義務教育学校の多様な学習形態に対応します。
  - ・学びに向かう力・人間性「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」をバランスよく育てることができ、学校全体で複合的な学習やアクティブラーニングに対応できる計画とします。

## 時代と教育環境の変化へのフレキシビリティ

- 子どもの発達段階・活動に合わせた多様なスペース
  - ・普通教室ゾーンは、吹抜けを中心とした一体的なゾーンを形成することで、3-2-2-2制や4-3-2制等の教育課程のクラスター編成に柔軟に対応できます。
  - ・学校生活の拠点となる普通教室（CR）・オープンスペース（OS）廻りは発達段階に合わせた設えを計画できる構成とします。教室の大小、家具の有無、設置場所等の違いを持たせることで、活動に合わせて選択できるようにします。



- 環境と共生する外構計画
  - ・溶岩と植物は、桜島特有の植生を学ぶべき教材です。敷地内の植栽は、できる限り利用して敷地内外のセキュリティに利用し、景観に配慮した外構計画とします。

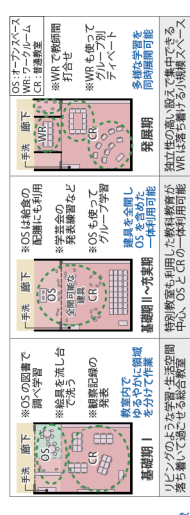


## ○ 天井高さのある体育室

- ・授業や校内スポーツ大会等の利用が可能な天井高さ（7m以上）と広さを確保し、地域活動も含めた様々な利用が可能です。

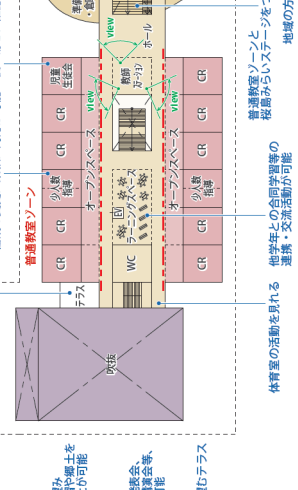
## ○ 特別教室も地域へ開放

- ・特別教室も公民館のように地域の活動場として開放することが可能です。管理諸室は地域開放工直リアを管理しやすく、子どもたちを見守りやすい配置とします。



## ○ 教職員の負担を減らす職場環境づくり

- ・拠点となる職員室に加え、普通教室のある2階に各教室を見渡せる教師ステーションを配置することで、移動の負担軽減と、子どもたちのコミュニケーションを取りやすい環境づくりを行います。
- ・職員室は、前期と後期課程の教職員同一士の連携を図りやすい打合せスペースや職員更衣室の整備等、働きやすい職場環境づくりを行います。



## 4 補助金も利用してロケット木造を工事予算内で実現

- ・木造を実現するため、豊富な木造施設の実績に基づき、適正なスパンや階高の構造モジュールを採用等の比較検討を行い、ロケット木造で実現する提案を行います。
- ・「鹿児島県木造公共施設整備事業」による補助金を利用し、構造材と内装材に県産材を使用します。



想定延床面積	・8,100㎡
概算工事費	・33億0000万円
本体工事	・31億4500万円
外構工事	・1億3900万円
解体工事	・1600万円

【全国初の3階建て木造学校の美観】



### 持続可能な地域づくりの基盤としてのひと・地域・環境にやさしい木造義務教育学校を実現します。

## 1 地域材を使用した大規模木造校舎実現のため木材利用・調達モデルの構築

○ **適材適所のベストミックス木造校舎**

- 木造耐火建築物とし、建築基準法に基づいた3,000㎡区画をRC造の防火上の壁等」で形成します。より強固な防火上効果的な構造形式で大規模木造校舎を実現します。
- 構造部材は「被覆型」と「燃え代型」を使い分け、一般流通材と中断面集成材を併用するハイブリッド手法とすることで、木材調達量と躯体コストを削減します。

【壁等で区画した大規模木造校舎のイメージ】

【耐火防火性能の柱イメージ】

【燃え代型】

- 躯体に必要となる構造用集成材は、35mm(厚)×12.5×2mm(幅)の規格(梁)にて採用(梁)にて採用(梁)にて採用
- 構造用集成材は、35mm(厚)×12.5×2mm(幅)の規格(梁)にて採用(梁)にて採用(梁)にて採用

【被覆型】

- 躯体に必要となる構造用集成材は、35mm(厚)×12.5×2mm(幅)の規格(梁)にて採用(梁)にて採用(梁)にて採用
- 構造用集成材は、35mm(厚)×12.5×2mm(幅)の規格(梁)にて採用(梁)にて採用(梁)にて採用

【木造体育館の事例】

○ **確実な木材調達ネットワークを構築**

- 確実な木材調達のための、行政、木材関係者、設計者等による「木材調達検討会」立ち上げ、木材調達に向けた情報共有、条件整理、工程の検討等を行います。
- 検討会には木材流通の横断的な知見を有した「木材コーディネーター」を参画させ、関係者同士の調整を円滑に行います。
- 丸太の歩留まりを高めるとともに、木材価値を高めるため、複数の部材を組み合わせた木取りを行います。丸太中心部で芯付柱、外周部で二次部材や仕上材、学校家具材を取り、木材調達にかかる手間とコストの抑制を図ります。

【木材調達検討会の役割イメージ】

【木材調達検討会の進捗イメージ】

## 2 次世代の地球環境・地域の負担にならない環境配慮型校舎の実現

○ **木造ならではの課題を解決**

- 木造校舎の長寿命化を図り、地域に貢献し続ける施設とするため、「木造計画・設計基準【公共建築協会】」が示す対策や右図に示す構造的対策を徹底します。

○ **安全性と経済性を両立する基礎計画**

- 上部架橋を軽量な木造とすることで、基礎躯体を扁平とすることで、硬質なため掘削にコスト・時間・時間を要する安山岩岩層の掘削量を最小限に留め、安全性と経済性を両立した基礎計画とします。

【構造形式による基礎比較】

【流通金物の使用例】

【ZEB化/降灰化による環境配慮/ICTの活用】

## 3 実績に基づく専門知識と地域理解力を集結した万全の取組体制 / 意見集約/ 独自担実施

○ **学校・木造・地域を熟知した設計チーム**

- 小中一貫校や鹿児島市内での公共施設設計、工事監理実績のある学校建築のスペシャリストを配置します。
- 全国初の3階建て木造学校をはじめ多数の大規模木造建築や、自然公園法地域内での小中学校の設計、工事監理実績を有する組織設計事務所の経験、専門知識を集結した万全の体制で業務を遂行します。
- 地元設計事務所と共に校舎内へのサテライトオフィスを検討し、校舎設計チームとして情報収集と迅速な対応を実現します。

○ **意見集約を集中的に行う「基本計画期間」**

- 基本設計の初期において、子どもたちや教職員、地域の方々からの意見集約を集中的に行う「基本計画期間」を設けます。
- 基本計画期間に、十分な時間と密度でワークショップ (以下WS) 等により意見集約を経た学校づくりを行います。
- 基本計画期間における確実な合意形成とフロントローディングによる工程の前倒しによる課題解決を実現し、手戻りのない円滑な工程管理を表現します。

○ **継続的なWSによる地域活動の場づくり**

- WSは多世代、多様な参加者を募るとともに、明確なテーマを設定し、市民開放スペースの使い方や、地域活動との連携、維持管理の仕組みづくりなどハード・ソフト両面からの議論を行います。
- 基本計画時のみならず、開校後の運用を見据えたWSを継続開催します。学校づくりを契機としたWSを継続的に行うことで、地域と学校の密接な関係を構築し、新学校が地域コミュニティの活動の場となるきっかけと下地をつくります。

【取組体制のイメージ】

【ワークシヨップの様子】

【円滑な合意形成と確実な業務遂行を実現する工程表】